

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

|               |   |       |             |
|---------------|---|-------|-------------|
| 事業所番号         | 4071601894  |       |             |
| 法人名           | 有限会社 ハーティー  |       |             |
| 事業所名          | グループホーム らくらく  |       |             |
| 所在地<br>(電話番号) | 〒839-0804 福岡県久留米市宮ノ陣町若松2348番地5<br>(電話) 0942-31-1388 |       |             |
| 評価機関名         | 財団法人 福岡県メディカルセンター                                   |       |             |
| 所在地           | 福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号                                  |       |             |
| 訪問調査日         | 平成20年9月24日  | 評価確定日 | 平成20年10月15日 |

【情報提供票より】(H20年9月10日事業所記入)

(1) 組織概要

|       |            |                   |      |
|-------|------------|-------------------|------|
| 開設年月日 | 平成16年4月20日 |                   |      |
| ユニット数 | 2 ユニット     | 利用定員数計            | 18 人 |
| 職員数   | 10 人       | 常勤9人, 非常勤1人, 常勤換算 | 人    |

(2) 建物概要

|      |                |             |
|------|----------------|-------------|
| 建物形態 | 併設 / <u>単独</u> | 新築 / 改築     |
| 建物構造 | 鉄骨             | 造り          |
|      | 2 階建ての         | 1 階 ~ 1 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                 |                |       |   |
|---------------------|-----------------|----------------|-------|---|
| 家賃(平均月額)            | 36,000 円        | その他の経費(月額)     | 円     |   |
| 敷金                  | (有) (100,000 円) | 無              |       |   |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有 (円)           | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無 |   |
| 食材料費                | 朝食              | 円              | 昼食    | 円 |
|                     | 夕食              | 円              | おやつ   | 円 |
|                     | または1日当たり        | 1,000 円        |       |   |

(4) 利用者の概要 (9月10日現在)

|       |         |      |      |    |      |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名    | 男性   | 3 名  | 女性 | 15 名 |
| 要介護1  | 2 名     | 要介護2 | 5 名  |    |      |
| 要介護3  | 3 名     | 要介護4 | 4 名  |    |      |
| 要介護5  | 3 名     | 要支援2 | 1 名  |    |      |
| 年齢    | 平均 80 歳 | 最低   | 60 歳 | 最高 | 92 歳 |

(5) 協力医療機関

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | 赤司内科医院、亀尾医院、田山外科、毛利歯科、 |
|---------|------------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

終の住み家として、笑いのある生活を送るために施設長・職員が一丸となって「家族」と思ってもらえるように接し、言葉遣いにも注意を払い、毎日が理念の実践として意識された支援となっている。認知症の理解を深めるために全職員の勉強会にも取り組んでいる。毎食の食事も栄養士の立てた献立を基本にしなが、利用者の意見を取り入れて調理法を変更するなど楽しく供されている。ターミナル期や病気を抱えた方も受け入れ、医療連携を良くとりながら、最期を看取る体制を整えている。家族の面会時間も入居者の状態を優先し、不穏にならないような時間を決めて

【重点項目への取り組み状況】

|      |  |
|------|--|
| 重点項目 | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価で課題としてあげられた「職員を育てる取り組み」において、事業所内や系列施設内での定期的な勉強会及び県での研修に積極的に参加し、研修計画や研修記録も整備され、自己学習をいつでもできるようにするなど、改善に向けて取り組んでいる。</p>                  |
|      | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意義を理解し、職員全員で協議するとともに、ユニット毎の評価にも取り組み、より利用者本位の視点を深める機会として取り組むことができて</p>   |
| 重点項目 | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>事業所に対して理解の深い自治会長や包括支援センター・老人会長・民生委員長および家族の会代表によって構成された推進会議は、2ヶ月毎に開催し、その時々サービスの実際・評価の結果がよく討議されている。それをファイルして玄関に置き、いつでも閲覧できるようにしている。</p> |
| 重点項目 | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>見えやすい場所に苦情相談窓口を明示し、家族の会でもいつでも受け付けているが、今のところ苦情より相談が多く丁寧に対応している。</p>  |
| 重点項目 | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の行事には積極的に参加している。また事業所の行事にも招待したり、近くの方から気軽に日常の食材料が届けられたりするなど、交流も活発である。</p>  |

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|--|---|-----|----------------------------------|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |  |   |     |                                  |
| 1. 理念と共有              |    |  |   |     |                                  |
| 1                     | 1  | 地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 利用者本位を貫き、ここで最期を過ごしていただくことも考え、「明日はわが身、尊敬と感謝、思いやりの気持ちを大切に、地域の一員としての役割を果たします」の理念を常に頭に置き、利用者に接している。 |     |                                  |
| 2                     | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 「もしも自分だったら」と考えての理念の実践は、管理者と職員の共有の取り組みとなっている。  |     |                                  |
| 2. 地域との支えあい           |    |  |   |     |                                  |
| 3                     | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 自治会長の運営推進会議への関わりをはじめ、採れた野菜の差し入れ、見守りや声掛けなどが自然に行われ、地域の一員として事業所を特別に意識していないような日常的な交流がある。            |     |                                  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |  |   |     |                                  |
| 4                     | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 施設長を先頭に管理者、職員が一体となり評価の意義を日常に活かしているため、改善の視点というよりも再確認をする機会となっている。                                 |     |                                  |
| 5                     | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回開かれる運営推進会議では、利用者本位の論議を行っている。会議の内容をサービス向上に反映し、活かしている。                                      |     |                                  |

| 外部              | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 6               | 9  | 市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる  | 開設時以前からの長期間にわたり、市への積極的な提言を展開している事業所として市とともにサービスの向上に取り組んでいる。                             |     |                                   |
| 7               | 10 | 権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している  | 制度を利用する必要性のある入居者に職員全体で共通認識を整えて対応するなど、活用も進んでいる。  |     |                                   |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |  |   |     |                                   |
| 8               | 14 | 家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている   | 毎月のご家族への便りの発行や面会時、電話などで常に密な連絡がとられている。また月に1度、個人の出納帳に目を通してもらいサインをいただくなど、個別的な対応が来ている。      |     |                                   |
| 9               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている   | 見えやすいところにポスターを掲示したり、担当者を配置したりして、日常的に家族等の意見や苦情を受け付けているが、現在は苦情は少なく相談が多い。                  |     |                                   |
| 10              | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている                                    | 初期の頃の職員異動は若干あったが、最近2ユニット共有しての関わりを活かしており異動が少ない。どんな場合であっても「ことばの環境」を磨き利用者に混乱を与えないような配慮がある。 |     |                                   |
| 5. 人材の育成と支援     |    |  |   |     |                                   |
| 11              | 19 | 人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。<br>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している | 社員雇用を努力し、性や年齢、前職などのこだわりを設けず、職員の得意なことを活かした採用をしている。                                       |     |                                   |

| 外部                        | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|-----|----------------------------------|
| 12                        | 20 | 人権教育・啓発活動<br>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる                                   | 採用時に人権、啓発の考え方を重視し、また「ことばの環境」づくりと呼ばれる、専門用語を使わず、悲しいことを露骨に持ち込まない方法を用いて、楽しい会話となるよう努力している。  |     |                                  |
| 13                        | 21 | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                | 先輩職員が率先して業務をみせるなどして、内部的な研修となっている。また先輩の有資格者が資格を取るサポートをするなど、職員を育てる仕組みを作っている。同系列施設合同の勉強会は定期的に行われており、他病院や県での研修にも積極的に参加し、事業所側も職員の研修に積極的である。 |     |                                  |
| 14                        | 22 | 同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている      | 勉強会、相談の受け入れなど同業者との交流も活発で、地域におけるリーダー的な事業所である。   |     |                                  |
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>  |    |   |  |     |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 |    |   |  |     |                                  |
| 15                        | 28 | 馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 利用者の情報を家族から提供していただき、柔軟に対応している。一人ひとりの個性を尊重し、職員と共に相談しながら利用者にとって過ごしやすい環境を作り上げている。オリジナルの机や飾りなど、利用者自らによる作品により馴染めるような工夫が多い。                  |     |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 |    |   |  |     |                                  |
| 16                        | 29 | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                      | 「まず人生の先輩であることを念頭に置き、尊敬し、学びながら共同生活を過ごすことで、喜怒哀楽や達成感を一緒に感じる環境づくり」ととらえ関係を築いている。職員は利用者から料理や梅干づくり、洗濯、裁縫などを学び、お互い支え合っている。                     |     |                                  |

| 外部                                    | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|----|--|--|-----|----------------------------------|
| <b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>      |    |  |  |     |                                  |
| 1.一人ひとりの把握                            |    |  |  |     |                                  |
| 17                                    | 35 | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している  | 「日々関わることで利用者の希望、意向を把握しその訴えにそったケアができる」ととらえて、利用者が希望や意向を出し、心を開いてもらえるような接し方や把握の仕方に努めている。   |     |                                  |
| 2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し         |    |  |  |     |                                  |
| 18                                    | 38 | チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している     | 一人ひとりと関わる中でその人のできることを探し、どんなことが一番合っているのかを考えながら、ケアプラン作成をしている。  |     |                                  |
| 19                                    | 39 | 現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月ごとに見直しをすることになっているので、毎日個別に経過記録をとっている。状態の変化や介護度の変更に応じて、その都度話し合いを行って計画を作成している。利用者の状態が介護計画にそぐわない状況になったと職員が気づけば、直ちに計画変更の検討がなされている。車椅子の方を普通の椅子に変えていくなどの自立支援にむけた検討などもなされている。 |     |                                  |
| 3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) |    |  |  |     |                                  |
| 20                                    | 41 | 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                                   | 家族の祝い事には一緒に参加出来るように支援するなど、本人や家族の状況や要望に応じて柔軟に支援できる体制を整えている。   |     |                                  |
| 4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働            |    |  |  |     |                                  |
| 21                                    | 45 | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                      | 利用者にとっての「家庭」を求めて設立されているので、ご本人のかかりつけ医はもとより近隣のかかりつけ医との関係を大切にしながら、適切な医療が受けられるよう支援している。  |     |                                  |

| 外部                             | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|----|--|---|-----|-----------------------------------|
| 22                             | 49 | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化や終末期のありかたについては、「重度化対応・終末期ケア対応方針」にて入所の時点でご本人や家族に説明をしている。全員で方針を共有している。 |     |                                   |
| <b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |    |  |   |     |                                   |
| 1. その人らしい暮らしの支援                |    |  |   |     |                                   |
| (1) 一人ひとりの尊重                   |    |  |   |     |                                   |
| 23                             | 52 | プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けに関しては、「ことばの環境」にこだわりながらいつもその都度注意をしている。         |     |                                   |
| 24                             | 54 | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している           | 一人ひとりのペースを大切にし、ご本人の体調や希望に沿って毎日が充実したものになるよう支援している。                       |     |                                   |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援  |    |  |   |     |                                   |
| 25                             | 56 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている                | 買物や調理・片付けなどは、その日の状態やその人のペースに配慮しながらできるだけ職員と一緒にやっている。                     |     |                                   |
| 26                             | 59 | 入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している               | 一人ひとりの希望に合わせ、毎日4時以降からゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。                             |     |                                   |

| 外部                            | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |  |  |     |                                   |
| 27                            | 61 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 一人ひとりの楽しみや趣味などを把握し、職員が教わる形をとることで、意欲が高まるような場面作りをしている。                               |     |                                   |
| 28                            | 63 | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                    | 自己決定を大切にしているので、買物や散歩、ドライブばかりでなく、庭の掃除をしたり、草取り・洗濯物干しなど、本人の希望する戸外に出る支援を行っている。         |     |                                   |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |  |  |     |                                   |
| 29                            | 68 | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 開設当初、鍵をかけていない玄関から出て探し回った経験から利用者の安全上、家族の同意を得てしかたなくかけているが、基本的にはかけないことが全ての職員間で徹底している。 |     |                                   |
| 30                            | 73 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 消防署からの指導を受けて避難訓練が行われ、避難経路を目につくところに明示しており、職員全員が把握している。地域の人々の支援が受けられる働きかけも見られる。      |     |                                   |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援    |    |  |  |     |                                   |
| 31                            | 79 | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている         | 栄養士による献立をユニットごとにたて、好みや状態に応じて調理法を変えるなど全量摂取出来るように配慮している。摂取量や水分量を毎食個別に記録し、職員が共有している。  |     |                                   |

| 外部   | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|--|----|--|--|-----|-----------------------------------|
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br>(1) 居心地のよい環境づくり |    |  |  |     |                                   |
| 32   | 83 | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 利用者が思い思いに過ごす共用の空間には、季節感のある飾りやカレンダー、趣味の道具などがあり、食事作りのいい香りが漂い、我が家で過ごしているような居心地のよさがある。職員主導でなく利用者と職員が一緒に空間を作り出す工夫をしている。 |     |                                   |
| 33   | 85 | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                    | 利用者の生活歴を感じられる部屋作りのために、本人の使い慣れた道具や好みものを活かしている。本人が居心地よく過ごせるよう馴染みのある家具や布団を持ち込み、机や物入れを職員も一緒に作るなど工夫している。                |     |                                   |